長浜ローカルフォト

巻頭特集 長浜ローカルフォト

写真でまちを元気に！

「一枚の写真が地域の価値をつくる」

写真で地域の魅力を伝え、地元の人に誇りを感じてもらおうと、そこにある日々の暮らしを撮り続けている市民団体「長浜ローカルフォト」。市の講座から始まった取り組みが、今や市民有志のまちづくり活動として地域に浸透しつつある。

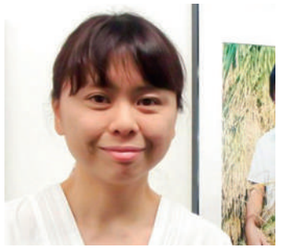
何でもない日常を宝物に変えて

ローカルフォトとは、地域コミュニティーの魅力を新たに発掘し、写真によって発信する活動をいう。90年代半ばから写真家として第一線で活躍しているMOTOKO（モトコ）さんが提唱する、写真によるまちづくり活動である。その土地に住む人がカメラを手に、地域に眠る宝物を探す。

MOTOKOさんはかつて、滋賀に残る消えゆく「日本の暮らし」に魅了され、田園ドリームという写真プロジェクトを実施。そんな縁から2016年に長浜市が「長浜ローカルフォトアカデミー」を開講し、講師を務めた。

講座には、初心者からカメラ愛好家まで幅広い層が生徒として集まった。写真家・堀越一孝さん、オリンパス株式会社（現・OMデジタルソリューションズ株式会社）の協力の下、受講者はカメラの使い方や被写体とのコミュニケーション方法を学んでいった。

「ローカルフォトは、地域の人やその暮らしぶりを撮影します。コミュニケーションを深めた上で、その人の素顔を撮らなくてはなりません。初めはずいぶん苦労しました」と、市職員として同講座を企画・実施し、今はメンバーとして関わる川瀬智久さんは振り返る。


有名アーティストやグラビア撮影などで活躍してきたMOTOKOさん。自身も長浜市に思い入れがある

3年間のアカデミーを経て独自の活動をスタート

アカデミーでローカルフォトの技法を学んだのは計3年。1年ごとに目標をたて、年度末には写真展を開催した。MOTOKOさんは、地域の人を見つめる大切さを繰り返し説明。被写体となった人が「それまで当たり前だと思っていた、その土地ならではの暮らしのすばらしさ」や「モデルとなった自分のかっこよさ」を感じられるような写真撮影をめざし、受講生は市内のさまざまな人と交流しつつ取り組んでいった。

また、撮影が自分たちのやりがいにもなった。2017年には市街地の恒例イベント『アートインナガハマ』の会期中に、道行く人に記念撮影を呼びかけ、その場で現像した写真をプレゼントした。当時の受講生で、現代表の田中香織さんは「写真を手にした方はとても喜んでくださって、私たちの自信につながりました」と話す。

こうした歩みを経て、2019年、講座の卒業生有志で「長浜ローカルフォト」を設立、自主的な活動が始まった。メンバーは主婦や自営業、会社員など30代～50代の男女10人。家庭や仕事の合間を縫って、まちの魅力を追いかけていった。

人と人、心のつながりが集落に光をもたらす

市民団体としての活動初年度の舞台は、余呉町菅並の限界集落。歴史的価値のある余呉型古民家が多数現存するが、高齢化・過疎化の進行から、空き家になって取り壊されてしまう例も少なくない。そんな地で、人々の暮らしぶりをカメラにおさめようという試みだった。

「ほとんどが一人暮らしのお年寄りの方で、最初は『恥ずかしいから撮らんといて』という人ばかりでした」と田中さん。撮影を強要したくはない――だから集落の人と自然な関係が生まれるまで度々訪れた。自治会の協力もあって、次第に日常会話を交わせるようになり、「またおいでや」と言ってくれるほどにもなった。

通った期間はおよそ半年。いつしか、ほぼすべての住人が写真撮影に応じてくれるように。そして企画したのが、屋外写真展だ。集落内に住人の写真パネルを点在させるように設置し、「集落まるごと展示空間」に仕立てた。

展示には県内外から予想以上の人が訪れ、メンバーも、何より集落の人が驚いていたという。「『私らのまちって、こんなに魅力あるんかいな』とおっしゃる住民の方もいました。屋外写真展を通じて、自分たちのまちを改めて見直す機会になっていただけたように思います」と川瀬さん。撮り溜めた写真で制作したフォトブックは好評を呼び、最終的に500部を発刊した。

上）映画『浅田家』で知られる写真家・浅田政志さんを招いた写真講座を開催した（2019）　下右）菅並フォトブック。住民のポートレートを中心に日常の風景を収めた。被写体の笑顔から、その距離感がよく分かる　下左）金居原フォトブック。行事を中心に撮影した写真に加え、土倉鉱山の歴史やトチノキの巨木群の保存活動も紹介している

活動2年目となる2020年の舞台は、産業遺産の土倉鉱山やトチノキの巨木群を有する木之本町金居原。新型コロナウイルスの影響から行動制限を余儀なくされながらも、人数を絞って1年間通い続けた。こちらも自治会が快く協力してくれ、メンバーが撮影に訪れる日は事前に集落放送で告知してくれたという。

今年1月から2月にかけて金居原と湖北観光情報センターで開催した写真展には、のべ600人以上が訪れた。なかには集落の出身者も訪れ、写真を見て涙を流す人もいたという。「金居原の空き家を使って何かを始めたいという人や、写真をきっかけに帰郷する人も出てきています。ようやく、私たちの活動が実を結びつつあることに喜びを感じています」と田中さんはほほ笑む。

今後も、市内の人々の暮らしぶりにスポットライトを当て、新たに他の集落を訪問するなどしてローカルフォトの活動を続けていく。「私たちにとっては、長浜に住んでいる人がみんなヒーローなんです。魅力を上手に引き出し、住んでいる地域への愛着や誇りを持っていただくことで、その地の輝きを取り戻す助けになれば」と田中さん。川瀬さんは「私たちの写真を見て、ローカルヒーロー（写っている人）に会いたい、このまちに暮らしたいと考える人が増えてほしい」と目を輝かせた。

■Information　**長浜ローカルフォト**
nagahamalpa.tumblr.com

今年の長浜曳山まつりでは、長浜曳山文化協会伝承委員会とのコラボレーションで写真・映像展「HIKIYAMA SIDE STORY」を開催。「山組目線」「子役目線」「女性目線」「外目線」の四つの目線で、祭りを支える人々を紹介した。動画は曳山博物館のYouTubeチャンネル（QRコードからアクセス）で視聴できる。

居川美保さん

山内美和子さん

竹中昌代さん

田中香織さん

川瀬智久さん

田中仁さん

川地米亜さん

宮本由貴さん

NAGAHAMA LOCALPHOTO MEMBER

※写真はメンバーの一部です

職業も世代も異なるメンバーで構成。「写真でまちを元気に！」をモットーに、長浜市内に住む人やその暮らしぶりを地域内外に発信する

文／延原正人　写真／長浜ローカルフォト提供　デザイン／ABBEY ROAD